

2025年第3回定例会(9月議会)報告 ●一般質問項目●



国分寺市議会議員
たかせ
高瀬かおる

- 1 創業支援について
- 2 高齢福祉について
 - (1)介護保険制度と介護事業所への支援について
 - (2)介護予防について
- 3 障害福祉について
 - (1)日中一時支援事業について
 - (2)意思疎通支援について
- 4 今後の移動の環境づくりについて
- 5 居住支援について



国分寺市議会議員
こさか
小坂まさ代

- 1 国分寺市立小・中学校の標準時数について
- 2 自殺対策について
 - (1) 子ども
 - ①こそでん(子ども専用相談電話)
 - ②SOSの出し方に関する教育について
 - ③学校でのメンタルヘルスケアの学習について
 - (2) 若者
 - (3) 妊産婦
 - (4) 高齢者
 - (5) 生活困窮者
- 3 図書館について
 - (1) 本多図書館市役所分館について
 - (2) 旧庁舎用地に移設される恋ヶ窪図書館について
 - (3) まちじゅうに図書館を〜ブックタウンこくぶんじに
 - (4) 子育て支援策としてブックスタートの取組を
 - (5) 子ども読書手帳について
 - (6) 図書館ボランティアについて
- 4 子どもたちを守るために
 - (1) 日本版DBSについて



国分寺市議会議員
まつおか
松岡まり

- 1 循環型社会の形成へ向けて
 - (1)生ごみのたい肥化について
- 2 ゼロカーボンシティの実現へ向けて
 - (1)国分寺市ゼロカーボン行動計画の現状について
- 3 農と市民をつなぐために
 - (1)第四次国分寺市農業振興計画策定の進捗について
- 4 ヤングケアラーの支援について
- 5 妊産婦に寄り添う支援を
- 6 予防接種事業について
 - (1)男性HPVワクチンの任意接種事業創設について

移動手段の確保を！

運転士不足を理由に、ぶんバスの撤退問題がありました。が、路線バスでも減便が行われ、最終バスの時間が繰り上げられるなど、市民の移動に影響が出ています。今後さらに少子高齢化が進むと、運転士不足はますます加速すると予測されます。若い世代が運転士を職業として選択できる労働環境の改善は喫緊の課題です。あわせて、新技術や新サービスの導入など、今からさまざまな方策を調査、検討するよう求めました。

例えば、市内には、送迎バスを運行する福祉事業所などがあります。空いた時間を活用し、地

「生き心地の良い町」づくりを市民と共に

ここ数年、自殺者数は全国的

域を絞った予約制のAIデマンド交通を実施するなど、異業種の連携で、新たな形態を模索してきたと考えます。行政として、市民のニーズにあった外出の機会を保障するためにも、交通事業者や市民との率直な議論が必要と

地域では、「バス停や買い物に行く途中にひと休みできるベンチがほしい」との声も多くあります。地域公共交通の確保とベンチのあるまちづくりで外出しやすいまちを提案します。

(高瀬かおる)

予防保全型の施設管理へ！

今年の夏、ひかりプラザの空調設備が故障し、長期にわたって施設の利用ができなくなり、多くの市民が影響を受けました。10月1日から施設の利用は再開したものの、空調設備の再稼働は12月初旬を予定しているとのこと。老朽化などによる空調設備の故障は、学校や他の施設でも起きています。特に近年の夏の暑さでは、命にもかかわる問題となっています。

PFAS汚染に対する血液検査を求める陳情が不採択に

この劣化度判定を付して、長期保全計画として取りまとめられています。今後、データを活用し、「国分寺市公共施設等総合管理計画」の改定につなげていくとのこと。壊れてからではなく計画的に更新し、突然、施設が使用できない事態に陥らないように、予防保全型の施設管理への転換が急がれます。

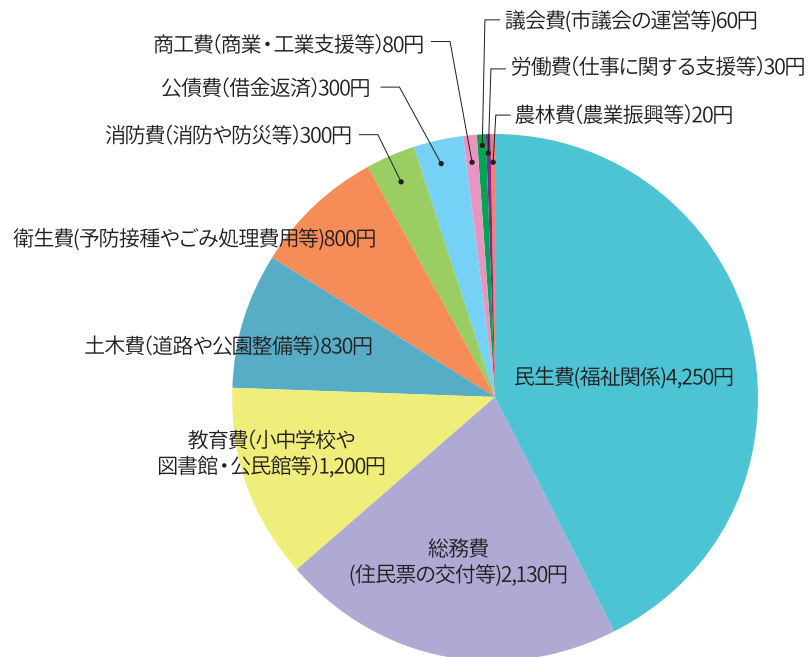
(高瀬かおる)

国分寺市2024年度一般会計決算について

決算を1万分の1の規模にして、ある一家の家計簿として説明します。

「国分寺さん」宅の家計簿1年間の収入は696・7万円で、支出は675・5万円でした。収入面では、市税が+22・3万円、国庫・都からの補助金が+9・6万円などの項目でアップし、歳入の合計は前年に比べ78万円増えました。支出面では、新庁舎建設費用などにより歳出合計は前年より77万円増えました。そして1年間で、貯金(基金)を

■国分寺市の2024年度の目的別の支出(総額を1万円としてみると)



72・6万円取り崩し、貯金残高は147・8万円から100万円に減少し、借金の残高は296・3万円から350・6万円と増えました。将来、返済しなければならぬ負債の財政に対する割合は15・3%から54・7%へと大幅に上昇しています。

厳しい物価高騰の中、新庁舎建設という大事業を成し遂げました。厳しい資金繰りの中で、銀行等からの一時借入を行わずに乗り切った点は評価し

(小坂まさ代)

いていいと感じられるまちをめざし、取り組みを強めていくことをこれからも求めています。

(小坂まさ代)

男性HPVワクチン導入は慎重に

7月の新市長所信表明では、来年度から男性のHPVワクチン任意接種事業の創設が示されました。女性接種では非常に稀ですがギラン・バレー症候群や急性散在性脳脊髄炎などの重篤な副反応が報告されたこともあり、かつて国の積極的勧奨が中止されたこともありま

す。現在では再開されていますが、男性接種については効果が低いと

(松岡まり)